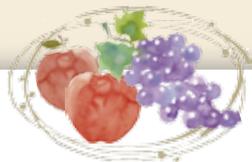


いっぺいといっぱく Vol.49



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【によぜがもん】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「によぜがもん」をクリック。]



ふるさとのまち

国勢調査によると、日本の労働生産人口は1995年をピークに減少が始まり、総人口も2010年をピークに減少しています。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口では、2053年には人口は1億人を切り、2065年には人口は8,808万人、高齢化率(人口のうち65歳以上の割合)は38.4%になるとのことです。

労働生産人口が減少するということは、経済成長も減少に転じ、税収も減るということです。経済の効率化のため都市への一極化が進み、それ以外のまちはさらに人が減っていきます。本市でも、将来的にはいずれ人口減少が始まるでしょう。

私は、大都市への一極化を防ぐためには、子どもたちが大人になって帰ってくる「ふるさとのまち」を作らなければいけないと思っています。そのためには、愛着を持てるまちにする必要があります。「つながり」、「あんしん」、そして「みどり」が重要となるのです。

一人ひとりに役割と居場所があり、人と人の「つながり」があること、犯罪や病院などの心配がなく、「あんしん」して日々を暮らせること、こうしたことが、ふるさととなるまちには必要です。そして特に「みどり」の力、全てを受け入れる寛容さを持つ自然環境や、木造建築物の持つぬくもり、みどり豊かな田園や里山の風景、こうした美しいふるさとの情景は、まちへの強い愛着へとつながります。

本市の東部は田畑や里山が残っていますが、西部は土地区画整理事業により、みどりが減少し都市化が進みました。私はこの西部にもう一度みどりを取り戻したいと思います。また、県が愛・地球博記念公園を、今後「ジブリパーク(仮称)」として整備する構想がありますが、市全体をジブリや万博の理念を継承した自然豊かなまちへとしていきたいと思っています。

長久手で育った子どもたちが、いずれ大人になり都市へ出てしまっても、都市にはない長久手の良さに気づき、帰ってくる。このまちを、そんなみどりが溢れる、ふるさとのまちにしたいと考えています。



※近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間
365日受付



表紙の写真もう一枚

下水道の大切さを知ってもらうために、「夏休み親子下水道教室」が開催され、下水道処理施設の見学や、水をきれいにしてくれる微生物の観察などが行われました。珍しい微生物を発見しようと、家族みんなで顕微鏡を食い入るように見つめていました。

